

## 裾野麗峰山の会山行報告書

文・浜道久美子 写真・後藤

山行番 NO. 1552  
日時 2013. 06. 23 (日) 晴  
山域 八ッ・赤岳 (2899m)、阿弥陀岳 (2807m)  
コース 赤岳班=赤岳山荘発7:44-行者小屋9:45-地蔵尾根-赤岳頂上山荘11:30  
~12:00-赤岳12:06-文三郎分岐(阿弥陀岳班合流)12:40-行者小屋  
13:15-赤岳山荘14:45  
標高差 上り 赤岳山荘約1700m~赤岳2899m=約1199m  
参加者 赤岳 後藤隆徳、井上弘二郎、小松眞明、浜道久美子、勝又陽一、勝又 薫、掛橋智美  
=7名  
阿弥陀岳 村山忠彦、河野光江=2名

今回の山行は、前泊組と当日組の二班に分かれ現地集合だった。前泊組は富士見高原スキー場の駐車場でテン泊。ここはトイレがあり助かった。早朝、鉢巻道路を美濃戸に向かうと、草刈り機を手にした老若男女が数百人、道路脇の草刈作業を開始していた。駐車している軽トラック数が圧巻だった。地元の方々の力を見せつけられた。美濃戸から赤岳山荘に向かう。今日は梅雨の合間の貴重な晴天で赤岳山荘駐車場は既に満車だった。久しぶりの好天で前日から入山している車が多い。下の旧小松山荘、やまのこ村に駐車した。

後発隊と合流して、7:44出発。南沢から上る。今年の2月に訪れていたが、風景は一変して緑、青、赤、黄と楽しめる色合いだった。覆いかぶさっていた雪庇も跡形なく、沢の水もゴンゴンと流れ、八ヶ岳の自然を感じる。雪で隠れていた、石、がれきが我物顔に鎮座しているのには閉口したが、アイゼンのひっかき傷が痛々しい。所々、山の中腹に雪渓が見られたが、ピッケルも軽アイゼンも必要がない。

延々と樹林帯を行者小屋まで2時間、標高2350mまで上る。行者小屋で二班に分かれ10時出発。赤岳組は地蔵尾根~地蔵頭~天望荘~頂上~文三郎新道~行者小屋のコース。阿弥陀岳組は中岳コル~阿弥陀岳~中岳~文三郎新道~行者小屋のコース。





赤岳をバックにポーズ！！

美しい阿弥陀岳

厳しい鎖場



行者小屋から地蔵尾根に行く。勾配はきつく、火山岩？のような岩場を上る。持参してきたストックが活躍した。地蔵頭まで標高差372m、約1時間。この岩場に取り組む。この火山岩は、比較的手にも靴にも吸いつきが良く上りやすい。気を緩めなければ難しくないと思う。ただ、一步一步の高さがあるので後の疲労が問題だ。階段を2か所上がったところで、鎖を伝って横歩きをするところがあった。ずるずると行きそうで慎重に足を運ぶ。岩肌に階段や梯子、鎖がありなかなか面白いコースだが、とても狭い。周りに気を付けながら順番に上る。

何名か下りる人とすれ違ったが、下る場合は慎重にしないと危険だ。中にクラブツーリズムの団体が30名ほどいた。昨夜は上で宿泊だっただろう。動作を見ているとこちらが恐くなる。事故が起きてからでは遅い。それよりなにより、この急傾斜を見ながら下りる勇気があるのだろうか。参加者の実力が様々なツアーは如何なものかと思う。

足を止めて振り返って景色を眺める。なんとも心地が良いがうっとりしていると滑落してしまう。横岳、硫黄岳もすぐそこにいる。そして、自然の贈り物の可愛らしい花たちに出会うことができ感激した。岩と岩の間から健気に花を咲かせている。黄、紫、ピンク、白。岩より、色とりどりの花に目が奪われる。

花の名前は分からないし、聞いてもすぐ忘れてしまうので、一つだけ覚えておく。イワウメ。リーダーはとてもよくご存じだ。K嬢も素晴らしい。八ヶ岳の夏山は初めてだったので、こういう楽しみ方は心が弾む。山によって花も違うと教えて頂いた。下りてからK嬢が夢中になって話をする姿がとても可愛らしかった。





岩梅



赤岳頂上

岩場に張り付き頑張る。稜線に出るとそこは地蔵頭 2772m だった。地蔵頭から臨む赤岳は開放的だった。天望荘を通り、赤岳頂上に向かう。赤岳頂上は 2899m 標高差 127m。傾斜のあるザレ場を上る。落石に注意。展望荘西面にはウルップ草が花盛りで美しい色が見られた。

ハイマツの間から黄花石楠花を見ながら約 30 分で頂上山荘に到着。お疲れ様でした。11時35分、ここで昼食を摂る。最年少のTK嬢はもちろん Beer を 1 本。頼もしい。空模様も怪しくなり、寒くなってきたので上着を羽織る。

12時出発。狭い赤岳山頂まで行き記念撮影。リーダーに感謝。そこから文三郎新道入口まで下る。岩ばかりなので下りる登山道が分かりにくい。狭い岩と岩の間から下山開始。うまくいけば阿弥陀班と途中合流できるかもしれないと期待を寄せながら、大きな岩の間を下りる。文三郎新道入口 2700m 付近で、中岳の下腹にブルーの人物を発見。

SLのMさんとK嬢？皆で叫ぶ。暫く、二人の健脚を眺めながら応援しつつ待つ。素晴らしいタイミング。LとSLの呼吸はぴったりだった。9名揃ったところで、今度はザレ場を超スピードで下る。岩場と違う瓦礫がとても歩き難い。梯子や落差が大きい階段に辟易。

行者小屋で一息いれ、一気に下る。途中、クラブツーリズムの団体様に出会いスピードダウン。しかし一気に抜かす。我が山の会のメンバーはLに付いていく。脱落者がいないのは素晴らしい。15時美濃戸高原到着。結局、30名ほど追い越した。お蔭で大腿四頭

筋を酷使した為、翌日は筋肉痛だったが楽しい一日でした。

梅雨の晴れ間に皆と赤岳に行けたことを大変嬉しく思っています。また、夏山の楽しみ方を教えて頂き、これからの山行にも生かしていけそうです。

リーダーやメンバーに感謝しています。合掌。

阿弥陀班と合流



階段が多い



行者小屋



九輪草





伊吹麝香草



蓮華躑躅



黄花石楠花

#### その他の記述（L後藤）

1. 夏の八ヶ岳は久しぶりだったが、あの車の多さには驚いた。
2. 行者小屋下で埼玉の某高校山岳部30名ほどに会う。全員お揃いの革登山靴を履いていた。聞けば3年間使用でこれが一番の品質という。東京の秀山荘特注品。ただ、女子部員はゼロとのこと。残念。(笑い)
3. 稜線は花盛り。横岳から来た方は、九十九草（つくもぐさ）が咲いていたと報告。
4. 主な花＝黄花駒爪、小岩鏡、桐桜、岩梅、深山金盃、御山豌豆（おやまのえんどう）、長之助草、雲間薺（くもまなずな）、八岳黄堇（やつがたけきすみれ）、ウルップ草、浦島躑躅（うらしまつつじ）、千島甘菜（ちしまあまな）、白山一華、峰桜、伊吹麝香草（いぶきじゃこうそう）＝駐車場、九輪草（駐車場）、蓮華躑躅（れんげつつじ＝駐車場）など
5. 八ヶ岳は積雪期登山が多いだけに、夏のガラガラ・階段には閉口。
6. 下山後、小淵沢IC近くの「越前」で「手打ちソバ」と「一本義」を堪能。入浴はなし。
7. 初めて全コースでストックを利用したが、まあまあ良かった。
8. 足が揃い、皆さんよく歩きました。

以上





週刊デジ・ブック  
NO. 54

<http://www.digibook.net/d/c744873fa05ca2ec64645512071ee022/?m>

